

GP

全グラ情報

JAPAN

2022

1

No.254

全国グラビア協同組合連合会



2021年9月印刷の月 記念式典

一般社団法人 日本印刷産業連合会



2021年9月印刷の月 記念式典 (2)

GP マーク普及大賞の北四国グラビア印刷、 準大賞の巧芸社、東包印刷が表彰

(一社)日本印刷産業連合会(日印産連)の「2021年9月印刷の月 記念式典」が2021年11月29日(金)午後1時30分より、東京・ホテルニューオータニ「鳳凰の間」において開催されました。20年は、新型コロナウイルス感染拡大により開催が中止となり、21年は9月の開催からは延期され、恒例の講演会・懇親会の中止、入場者数の制限、および表彰者のオンライン参加等、感染対策に配慮した上での開催となりました。今回は経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課の高木美香課長の講演と、第2部のGP環境大賞等表彰式、東京都の小池百合子都知事の挨拶などを紹介します。

来賓講話
印刷産業の持続可能な発展に向けて
経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課
高木美香課長

2019年の印刷市場は約5兆円



経済産業省コンテンツ産業課の高木課長

2019年度(令和元年度)に行った「印刷産業における取引環境実態調査」(以下、取引環境実態調査)から、アンケート調査の結果などを紹介しました。

まず、過去30年間の印刷・同関連業の出荷額と事業所数などのデータから、「印刷市場は1991年がピークで約9兆円でしたが、2019年には約5兆円まで減少しています。1年当たりになるとマイナス1.5%、さらにそれを上回る年率マイナス4.9%で事業所数が減少しています。中でも、従業員

9名以下の小規模の事業所の減少幅が大きいという結果が出ています。直近のコロナ以後も含めた印刷製品別の生産金額の推移では、商業印刷、事務印刷が減っています。コロナの影響でイベントや様々な商業関連の経済活動が停滞して印刷物の需要が減った、事務印刷はおそらくテレワークなどで減ったのかと思いますが、一方で証券印刷は15%伸びています。コロナで特需のような業界もありましたし、必ずしもすべてがマイナスではないということです」と説明がありました。

売上成長率、平均値はマイナスに

取引環境実態調査で実施した稼働率のアンケートでは、稼働率が7割を切っているとの結果となりました。2014年の調査時点では稼働率70%以上の事業所が多かったのですが、徐々に減ってきているとのこと。印刷受注単価についても、「変わらない」が回答の半数以上を占めました、「1~3割程度安くなった」という声や、中には「原価割れをしている」との回答も見られるとのこと

です。

売上成長率と営業利益率の分布では、小規模でも業界の平均を上回る成長、利益率を達成している企業も一定数は存在していますが、売上の伸び率の平均値はマイナス1.6%、営業利益率の平均値は0.9%という結果でした。

では、どういことをすれば印刷業でも営業利益率を上げていけるのか。「1つの方策として、印刷以外の事業に取り組んでいるか、ということがあります。印刷以外の工程も手掛ける事業者の方が営業利益と売上成長率ともに平均値が高く出ています」と高木課長は説明します。

印刷産業の目指すべき方向

高木課長は、「印刷産業は印刷出荷額、設備稼働率ともに低迷しています。印刷事業のみではなかなか先が見えません。価格競争が激化し、供給過剰になっているところにさらにネット印刷通販といった事業形態も出てきて受注単価が低迷しています。承継問題もアンケート結果からかなり見られました。そういった中で改善余地はありますが、収益管理、事業企画などが課題となっています。印刷業界が何を指したら良いのか、検討会でも議論いただきましたが、事業領域の拡大、デジタル化への対応、高付加価値サービスの実現といったことが個社の取り組みとして挙げられました。そして、印刷業界全体としては下請取引をどうしたら適正化できるかという課題についても伺っています」と話します。

印刷だけではないプラスアルファの価値の創出については、地場産業や観光資源のプロデュースや、地場 to C、デジタルも活用した企業のPR・マーケティングを支援する、といったことを挙げました。また、印刷業者をバラバラに発注している発注側に、各社が作った印刷物を自社で全部引き受けてまとめてパッケージしてサービスとして

提供するという、顧客の面倒なところをまとめて対応するフルフィルメントサービスや、需要者の業務IT導入支援といった印刷に紐づくようなものを中心に異なるサービス展開をしている事例があるということでした。

そして、DXも印刷業界にとって重要だとし、「大小多様な特色を持った印刷企業をネットワーク化して、空いている稼働時間を共有する取り組みができないか」という話がありました。そうすることで高付加価値情報サービス業に転換し、過剰設備の解消、得意分野への生産集約、協調領域の業務共有化といったことができないかという話がありました」と解説しました。

高付加価値領域へのサービス拡大の例としては、印刷工程の前後を含めた付加価値を提案するイメージだと話します。

「どうしても中小事業者だと、印刷、あるいはその前後の工程のみを自社で担当する形になりますが、大手企業になるとマーケティング・企画から効果測定・分析まで手掛けています。付加価値で言うと、印刷以外の工程の方が付加価値が高くなることもあり、中堅、中小事業者も自社、あるいは他の会社と連携して付加価値の高い領域をカバーできるかが大きな課題ではないかと思っています。

また、印刷業界のDXについては、検討会で出たアイデアを全印工連さんが具体的なプロジェクトとして取り組んでおり、経産省で運営するJ-LOD(コンテンツグローバル需要創出促進・基盤強化事業費補助金)で、印刷の受発注およびデータ入稿業務の生産性を向上させるプラットフォーム『DX-Plax』を開発しました。今年度はこのシステムと様々な会社の印刷機を接続するためのインターフェースソフトウェアを開発しています。これにより、中小印刷事業者の共同受発注業務ができて、全体の稼働率の適正化にも貢献できるの

ではないかと期待しています」

下請取引の問題事例

業界全体の課題としては、下請取引の適正化が重要だとし、次のような中小企業庁の取引調査員（Gメン）のヒアリングで出てきた問題事例を紹介しました。「取引対価決定が後指値になっている、製品の不良によりエンドユーザーが被った損害（製品ロス、資材ロス、ライン停止費用、選別費用、固定費ロス、出張費）を下請事業者が負担、親事業者所有の版について保管場所、保管料を下請事業者が負担、親事業者から無償支給された材料の残材の保管料の支払いがない、取引対価の値上げ交渉が困難、運送費、在庫保有費について取引対価に反映されない、購入・利用強制、不当な経済上の利益提供要請、支払条件についてすべて現金とする割合が低い（印刷業平均34.3%）といったデータが上がってきています。こうしたことを是正することが必要だと思っていますので、業界による自主行動計画の策定をぜひ進めていただきたいと思います」。

最大1億円の事業再構築補助金を用意

経産省のコロナ対応支援策についても説明がありました。「コンテンツ産業課も含め、経産省は全体的に過去2年コロナ対応に全力を投じています。困っている事業者さんをなるべく多く救えるように、様々な政策を打ち出しています。資金繰り、設備投資、販路開拓、経営環境の整備、給付金、税等の支援策があります。中でも『事業再構築補助金』は、1件当たり最大1億円、総額1兆円、過去に例を見ない規模で用意しています。ものづくり補助金、IT補助金を使っている事業者さんは多いと思いますが、こういった新しい補助金も活用ください」。

最後に、「変異株でまた先行き不透明になりつつ

ありますが、ワクチン接種も進み、少しずつ経済活動が戻ってきている状況ですが、ウィズコロナ、アフターコロナに向かってどのように進んでいくのが皆様の大きな課題だと思っています。そういったテーマで議論を進めてきた集大成が『Change Together』にまとまっていると思いますが、あらゆるビジネスが印刷業のお客様だと思いますが、そういった顧客に向けて何を提供するかという捉え方は様々です。私としては、広く捉えればコミュニケーション産業という見方が出来ると思いますが、この捉え方はそれぞれの会社で追求されていく結論だと思います」とまとめました。

GP 環境大賞等表彰式

GP 環境大賞は、日印産連の GP 認定制度において、GP マーク表示印刷製品を多く発注したクライアントに授与するもので、GP 環境大賞を過去3回以上受賞した団体に贈られる GP 環境大賞ゴールドプライズ、一般印刷部門、パッケージ印刷部門それぞれを表彰しました。

GP マーク普及大賞は、GP 認定工場の中から最も GP マーク表示件数が多く、GP マーク普及に貢献した、オフセット印刷、グラビア・シール・スクリーン印刷部門、製本・表面加工部門の3部門の GP 工場に授与するもので、グラビア印刷部門では、大賞を受賞した㈱北四国グラビア印刷、準大賞を受賞した㈱巧芸社と東包印刷㈱が表彰を受けました。

GP 資機材環境大賞は、GP 資機材認定制度に参加し、GP 資機材認定製品を最も多く登録しているメーカーに印刷工場環境負荷低減に寄与したものと授与するもので、機材部門と資材部門を表彰しました。

受賞者を代表して、東京都三鷹市と㈱タカラトミーから謝辞が述べられました。

2021年9月印刷の月 記念式典 一般社団法人 日本印刷産業連合会



表彰状を受けとる北四国グラビア印刷の奥田社長



日印産連の藤森会長、小池都知事と GP マーク普及大賞・準大賞を受賞した皆さん